

秀康がつなぐ縁 広がる連携の輪

— 結城市 × 福井市 友好都市 市長対談 —



福井市長 西行 茂

昭和53年福井市役所入職。企業局長、総務部長、企業管理者などを歴任し、平成28年8月から令和5年9月まで副市長を務めた。令和5年12月に福井市長に就任。

結城市長 小林 栄

結城秀康は、徳川家康の次男で、豊臣秀吉の養子になった後、結城家の養子に入り第18代を継ぎました。結城家当主となった秀康は、関ヶ原の戦いの後、1601（慶長6）年に越前北庄（福井県福井市）に移りました。福井藩初代藩主として福井城を築くとともに城下町を建設し、現在の福井市の基礎を築きました。このような歴史的なつながりから、市民間でさまざまな交流が行われ、

2000（平成12）年には福井結城会が福井市で発足、2001（平成13）年には秀康の越前入部400周年を迎えました。こうした機運の高まりを受け、2002（平成14）年4月13日に友好都市盟約を締結し、2022（令和4）年には締結20周年を記念したセレモニーが福井市で開催されました。この度、新春特別企画として両市のさらなる連携や発展を目指し、市長対談を実施しました。

福井市について

西行市長

結城市の皆様、明けましておめでとうございます。

福井市は、結城秀康公を藩祖とする福井藩の城下町として発展し、人口約25万4000人の中核市で福井県の県庁所在地となります。

これまで空襲や大震災や水害などの困難を乗り越え、再建していることから「不死鳥のまち」として知られていることは市民の誇りでもあります。

令和6年3月の北陸新幹線の延伸を100年に一度の好機ととらえ、様々なイベントによる交流人口の拡大を図っています。全国で唯一フルマラソン大会が行われていなかった福井県ですが、3月に「ふくい桜マラソン」を初開催いたしました。

豊かな自然を生かした地酒や名物料理の越前おろしそばやソースカツ井、季節によっては越前ガニが楽しめますので、ぜひ、友好都市・福井市にお越しください。

地域と連携した教育環境整備

小林市長

福井県は文科省が実施している全国学力テストで全国トップクラスの学力を維持されていますが、何か秘訣があるのですか。

西行市長

秘訣かどうかは分かりませんが、それぞれの先生が授業に工夫を凝らしていることもさることながら、三世帯同居率の高さが影響しているのかも知れません。両親が共働きであっても祖父母が家にいることで子どもたちの安心や精神的な安定が生まれ、成績向上につながっているものと感じます。また、地域全体で子どもを育てる風潮が根付いていることも要因の1つであろうと思います。

一方で学力向上だけでなく、子どもたちの判断力や意思決定力を養うためのキャリア教育を推進している



対談は令和6年11月24日に結城市役所にて実施しました。

ほか、外国文化に触れる機会を増やすため、保育園や幼稚園に市国際文化交流大使を派遣し外国人と触れ合う機会を設けたり、小学校からはネイティブスピーカーであるALTを配置した授業を行うなど英語教育にも力を入れています。

小林市長

全国的な傾向と同様に本市においても少子化が進んでおり、地域によっては1学年あたりの児童数が10～15人といった「小規模校化」が進んでいます。「学校適正配置等に関する提言」に基づき、5つの小学校を統合した小中一貫校の令和10年度開校に向け、現在準備を進めています。新設校については、福井市と同様に学力向上だけでなく、多様な価値観を学び、協調性を育むことができるような学校づくりをしたいと考えています。

今般、予定している地域は自然が豊富であるため、農地や里山といった立地環境を生かし、有機農業や酪農、里山やビオトープなど、食や環境問題にも関心を持てるような教育環境を整えていきたいと思っています。その際には地域の農家などにも講師的な立場で協力してもらいたいですね。

西行市長

農家との連携は素晴らしいですね。ところで、毎年、子ども親善大使として、お互いの市に小学生を派遣していますが、リーダー的な存在が自然に生まれるほか、まったく異なる

環境の子ども同士が触れ合うことでお互いを理解しようとする心が育まれるようで、派遣の前後で子どもたちが大きく成長したことが感じられます。今後ともぜひ、継続していきたい事業だと思います。

小林市長

「かわいい子には旅をさせろ」と申しますが、私も同感です。本市の子どもたちも福井市で貴重な体験をさせていただき、成長していることを実感しています。

今年度は本市の校長会が福井市を訪問いただきましたが、かつて、本市（茨城県）の小学校教員が福井市（福井県）の小学校で教鞭をとった実績があると伺っています。今後は、小学生だけでなく、教員間の定期的な交流も検討したいですね。



子ども親善大使派遣事業

福井市の小学6年生が7月に結城市を訪れ、結城市の児童とともに機織りや藍染めを体験することで交流を深めました。また、8月には同様に結城市から福井市を訪問し恐竜発掘などを体験しました。この事業は令和6年度で20回目を数えます。